

論文審査の要旨
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 (文学) Ph.D.	氏名 (Candidate Name)	鄭 西吟
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
論文題目 (Title of Dissertation) 中村雄二郎の「臨床の知」に関する研究 — 芸術への展開に向けて —			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)	教授	衛藤 吉則	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	教授	有馬 卓也	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	教授	後藤 弘志	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	准教授	後藤 雄太	
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>本研究は哲学者中村雄二郎が提唱した「臨床の知」の思想構造を解明し、その理論の応用可能性を考究する試みである。近代以降、科学が発展する中で科学的な物の見方も社会に浸透してきた。それは、普遍・客観・論理を重視する見方であるが、この見方が急速に広がることで私たちが古来重視してきた特殊具体的な生をも射程に入れたホリスティックな見方の意義が欠落していった。普遍性は物事を場所と時点から抽象し、コスモロジーを軽視した。客観性は物事を対象化し、主観的感情をないがしろにした。論理性は単線的な因果関係を重視するが、生活世界の生き生きとした生の豊かさや有機的な関連を描き出すことができている。それゆえ、科学が万能視される現代においてこそ、そこからこぼれ落ちた個別性・感性・多義性を重視する新たな知が要求される。そうした脱近代の思潮のうちに中村の「臨床の知」は位置づく。</p> <p>本研究の独創的な点は、この中村の「臨床の知」を芸術という営みの内に再構成し、その現代的意義を浮き彫りにしたことにある。中村は著書『共通感覚』において、物事を全体的に把握する人間として、芸術家の存在が重要な意味を持つという。例えば、絵画を描く場合、芸術家は優れた技法や豊かな想像力を使って、感性に浸された自我を色彩や図形の組み合わせの内に表現していく。その営みを通じて、絵画作品は芸術家の感性やイメージを体現し、知を顕在化させる。この意味で、芸術は「臨床の知」と同じホリスティックなアプローチをとり、「臨床の知」を内面化する有効な方法と考えられる。それゆえ、本研究では「臨床の知」と芸術場面での応用として芸術的実践が有する治療的役割を示すことで、「臨床の知」の現代的意義を提起する。本論の内容を以下に示す。</p> <p>第一部（「臨床の知」の理論）では、第一・二章において、主に中村の『臨床の知とは何か』を軸に、「臨床の知」と臨床医学・自然科学との比較考察によって、「臨床の知」の特徴と意義を明らかにした。第三章から第五章では、中村の『場所（トポス）』『共通感覚論』『現代情念論』に基づき、「臨床の知」の三要素である「場所」「共通感覚」「情念」の意味を検討することで、「臨床の知」の理論構造を描き出すことに成功した。</p> <p>第二部（芸術の原理）においては、中村の「臨床の知」と芸術との関係を解明するため、一般的な芸術論との比較を行った。第一・二章においては、竹内敏雄による『アリストテレスの芸術理論』と上村博の『身体と芸術』を取り上げ、芸術の創作側と鑑賞側の両方面から芸術作用（自己表現と自己形成）の内実を探り、そうした芸術作用と「臨床の知」との関連性について論じた。第三章では、美術史研究において指摘される遠近法をめぐる近代芸術の問題性とその克服に向けた芸術革新プロセスを考察し、そのプロセスと「臨床の知」の誕生過程との類似性について</p>			

論証した。

第三部（「臨床の知」の展開としての芸術）では、第二部での考察をふまえ、中村自身の芸術論『魔女ランダ考—演劇的知とはなにか』を「臨床の知」の内に位置づけることを試みた。加えて、中村と治療教育家川手鷹彦との共著『心の傷を担う子どもたち—次代への治療教育と芸術論』をもとに、「臨床の知」と芸術と療育とをつなぐ応用倫理学（教育倫理学）の可能性を示唆した。

中村論をめぐる論文全体の構造の明瞭化や幅広い哲学的論及に課題を残すが、芸術や治療教育の観点から、中村の「臨床の知」の現代的意義を提供できたことは学術的に高く評価できる。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（文学）の学位を受ける十分な資格があるものと認める。

備考 要旨は、1,500字以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)